

下記の市民公開講座を企画いたしました。

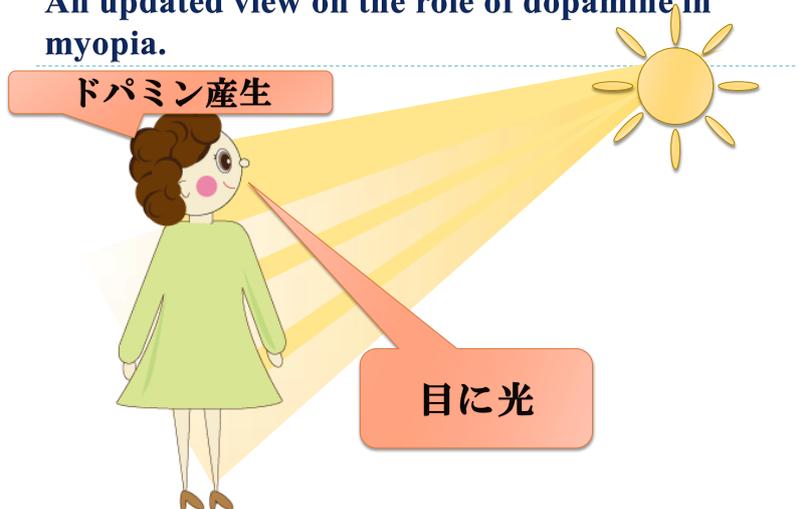
眼に光を照射すると、パーキンソン病が改善するって知っていますか？  
—パーキンソン病における高照度光療法—

演者：ウイリス博士、オーストラリア  
Clinical Director, The Bronowski Clinic  
Director, The Bronowski Institute of Behavioural Neuroscience  
Coliban Medical Centre

パーキンソン病の治療は、薬物療法、外科的治療、リハビリテーションが知られています。一方で、Artemenkoら（1996）、Pausら（2007）は高照度光療法がパーキンソン病の非運動症状のみならず運動症状にも効果があることを報告しています。それを大きく発展させたのがウイリス博士です（Willis 2007, Willis and Turner 2012）。オーストラリアのクリニックにはこの治療方法の指導を受けるために、米国をはじめ海外の患者さんも受診されているようです。最も長く治療されている患者さんは16年だそうです（平均しますと、6－7年の使用経験）。患者さんの中では進行が止まったように思われる患者さんがかなりの数おられるという発表もされています。当院では、未だ2年半と経験が少ないのですが、既に病気の進行が止まったように思われる患者さんが数人おられます。

昔から、パーキンソン病の眼症状は良く知られた事実で、網膜のドーパミンの減少についても発表されています。また、ウイリス博士は、パーキンソン病の動物モデルにおいて眼にドーパミンを注射すると改善することも報告されています。一方で、眼に日光が当たるとドーパミンが網膜に増えることが報告されています。

### An updated view on the role of dopamine in myopia.



Feldkaemper M, Schaeffel F. An updated view on the role of dopamine in myopia.  
Exp Eye Res. 2013;114:106-19.

これらの事を考えると、眼に光が当たるとドーパミンが産生されて改善されるというのも頷けます。また、ドーパミンは昼のホルモンですので、夕方以降の服薬や高用量のドーパミン刺激は多くの方で昼夜逆転現象を引き起こします（不眠、日中の眠気、軽度のうつ、食欲不振、夜間頻尿など）。そういう面でも光療法は大きな効果を生み出します（体内時計の是正）。

どの薬剤でもそうですが、全ての患者さんに効くという分けではありません。しかし、効果を示す患者さんの方が多いようです。未だ照射時間、その時間帯などに解決すべき課題があるように思われます。欠点としては、毎日続けなければいけないということ、運動症状の改善には最低で三カ月かかるということ、などが挙げられます。

日本では当院以外では行われていない治療方法ですが、多くの患者さんに知って貰う良いチャンスかと思い、ウイリス先生のセミナーを企画いたしました。

ふるって参加下さい。